

子どもたちにも「めいわ」の野菜を

1月から学校給食に地元産農作物の使用を開始



「おいしいよ！」給食を食べる東小1年生



1月22日の献立

明和産の白菜がたっぷり!

価格、量、補償や納入方法について協議を重ね、平成14年12

子どもたちに地元産農作物をとおして地域の素晴らしさを認識してもらおうと同時に、上品質野菜等の安定供給を目的に、1月から幼稚園、小・中学校の学校給食に地元産農作物の使用を開始しました。

町では、平成14年2月に明和町学校給食等地元産農作物利用促進協議会を学校関係者、生産組合の代表者等関係者29名により設立し、作物、



使用当日納品される新鮮白菜

月に館林市農業協同組合と地元産農作物の購入契約を締結しました。

今回契約した農作物は、きゅうり、白菜、なす、にら、いちごの5品で、館林市農業協同組合から学校給食センターへ使用当日に納品されます。1月は8回にわたり、きゅうり合計115kg、白菜合計410kgが納品され、それぞれ給食に使用されました。子どもたちが、学校給食という形で地元産農作物にふれることにより、食への安全、町の農業への関心を大きく広げてもらえるよう、今後もしっかり扱う農作物の種類を増やしていく予定です。

「郷土に対する愛着を」



学校給食センター 杉山美夏 養士

取れたてで、みずみずしく鮮度のよい地元産農作物を学校給食で取り入れることにより、明和町の将来を担う子どもたちが郷土に対する愛着と、飽食時代の今だからこそ食料自給の大切さについて再認識していただくことを願っています。

「残さず食べたいです」



組 東小6年 栗原清夏さん

地元産農作物が給食に使われはじめました。私のおじいちゃん、おばあちゃん、お父さんの作ったきゅうりも使われ、みんなに食べてもらえると思うとうれしいです。今よりもっとおいしいかなと思います。これからも残さず食べたいです。